

一般社団法人 日本脊椎脊髄病学会

平成 26 年度第 3 回学術集会プログラム等検討委員会議事録

日時：平成 27 年 1 月 16 日（金）14:00-15:00

場所：神戸ポートピアホテル（南館 5 階 555 号室）

出席者：田口敏彦（委員長）、小森博達、紺野慎一、島田洋一、徳橋泰明、持田讓治、山崎正志、根尾昌志（担当理事）

山田 宏（和歌山医大、第 43 回日本脊椎脊髄病学会学術集会事務局）

寒竹 司（山口大学、第 44 回日本脊椎脊髄病学会学術集会事務局）

斎藤 修（日本大学、第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会事務局）

本郷道生（秋田大学、第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会事務局）

欠席者：吉田宗人

議題

1. 報告事項

第 46 回日本脊椎脊髄病学会準備状況

秋田大学の島田委員から開催までの大まかなスケジュールが示され、それに従って順調に進んでいることが報告された。

第 45 回日本脊椎脊髄病学会準備状況

日本大学の徳橋委員から準備状況が報告された。ポスター作製が終了し、第 44 回学術集会の際に会員に配布できるように準備をされている。プログラムについては、学会の共通テーマである骨粗鬆症、疼痛、脊柱変形を盛り込みながら、ディベート、主題の選定作業中であることが報告された。「新専門医制度発足にあたって」のディベート案に対して、持田委員から、脳外科医も含んで新制度の準備に当たっている作業部会の意見も参考に進めていくことが提案され、了承された。

2. 審議事項

第 43 回日本脊椎脊髄病学会決算について

和歌山医大の山田宏先生から第 43 回学術集会の決算報告があった。当初の予算を超えて 1 億 2000 万円規模の学会となったが、参加者が 2000 人を超えて参加費・受講料収入も多く、1500 万円余りの黒字となった。しかし、共催セミナー数が予定(36 コマ)よりも少なかった(27 コマ)。

石原嘉久顧問税理士のチェックも終了しており、収益事業に対する税金に対しても学

会として準備ができているとのことで、決算は承認された。

第 44 回日本脊椎脊髄病学会プログラムについて

山口大学の田口委員、学会事務局から演題の応募状況、予定プログラムの説明があった。現在プログラム編成の最終段階であり、近日中に一般演題の採否通知、座長依頼を行う予定であることが報告された。

学会当日の抄録集の販売価格について審議された。価格が2,160円となっており、事務局から、会計処理が煩雑になるため期間中は切りのいい値段で販売できないかとの提案があった。基本的には抄録集は電子媒体での対応をお願いし、やむをえない場合に限り販売を行うことが承認された。抄録販売価格については、定価より安くない範囲で、学会長に一任することとなった。今後の学会についても抄録集販売はやめ、電子媒体で抄録を見てもらう方向で意見が一致した。

持田委員より、多くの学会でポスター発表の位置づけが上がっており、口演とポスター発表の比重を今後継続して考えていく必要性が提案された。これを受けて、ポスターアワードについては今後も可能な範囲で継続していくことが確認された。

次回委員会日程

5月の日整会期間中とする。主な議題は、各学会の準備状況報告、第44回学術集会の暫定的な終了報告に加え、第44回学術集会で決定する第47回学術集會会長予定者から準備に向けての見通しを報告してもらう。